

characters/personalities,
i.e.punctuality in reporting to the office or in attending meetings, belief towards family, way of thinking, diligence, hard working, and their establishing friendship is very important..

Slow AI adoption by farmers-

We should understand that in the Philippines, cattle population is concentrated in large ranches. One farmer owns only one cattle thereby giving geographical distribution problem to the technicians. Filipino farmers are more crop-oriented and livestock is just secondary. Technicians are generalists- they cover other poultry and livestock, as well as extension works. The GOP is not doing any information dissemination on AI since its thrust is towards dispersal. Perhaps, if all regions will have its own LN₂ plant and materials then, GOP should use tri-media approach to information campaign.

Discussion of the Mission Team with Cagayan de Oro City Veterinary Officer, Dr. Hermigildo Pagandan on November 22, 2001 at 1:20 P.M.

Hereunder are excerpts of the statements made by the concerned respondent:

Effect/s of AI —

The AI has tremendously improved the quality of bloodline. The office has increased the number of AI technician from one to three (3) thereby increasing its services to 12 heads/month/AI technician. The City Government has been allocating Php16,500 budget per year for the purchase of LN₂. AI cooperators has been steadily increasing at 30% every year. As a result, four (4) dairy cooperatives have been established to process fresh cow s milk for value- added.

Discussion of the Mission Team with Engr. Gennie Gallogo, Provincial Planning and Development Coordinator of the Province of Misamis Oriental on November 22, 2001 at 3:00 P.M.

Following are excerpts of the statements made by the PPDC:
Agricultural Plan —

The Province s thrusts are geared towards crop and orchard production . Dairy production is being undertaken by the private sector since the province does not have budget. Since the Provincial Veterinary Office has not yet formulated a comprehensive plan for poultry and livestock, animal dispersal and AI implementation is not yet being implemented. The Provincial Government however, has been regularly allocating Php 3M for veterinary and vaccines only.

タイ関連
議事録

| | |
|----------|---------------------------|
| 主な課題 | 山岳民族自立支援プロジェクトの課題 |
| 訪問先名(場所) | プロジェクト事務所 |
| 日時 | 2001年11月29日(木) 9:30-12:00 |
| 面会者 | タイ国山岳民族自立支援プロジェクト派遣隊員(6名) |
| 調査団出席者 | 高野(記録) |

協議内容

現在同プロジェクトに従事している6名の隊員にチーム派遣プロジェクトの長短、山岳民族自立支援プロジェクトの課題について忌憚のない意見を伺った。隊員からは様々な意見が出たが、チーム全体を代表する意見のみを掲載し、個人的な意見については(参考)のマークを付した。

(1) チーム派遣プロジェクトの長短

(長所)

- ・大きなお金が付くこと
- ・個別派遣に比較すれば自分の活動の内容が明確であること

(短所)

- ・現場を知らない人が計画段階に携わる場合、隊員の活動が間違った方向性を持ち、取り返しがつかなくなる
- ・自分が必要だと感じる活動ができないこと
- ・計画の途中修正が効かないこと

(2) プロジェクトの課題

- ・プロジェクトの課題については以下のコメントがあった。

①JICA事務所の調整不足

この原因として、物理的な距離が遠いほか、電話や無線による通常のコミュニケーションができないこと(携帯電話の通話外地域にある)があげられるが、提出する報告書だけでは現地の事情をうまく伝えることができず、どうしても顔をつきあわせた会議が必要になると感じている。プロジェクトの最初の段階ではかなり頼りになる調整員が居て(スーパー調整員と呼ばれていた)、タイ側と対等な交渉を行っていたと聞き及んでいるが、最近はこちらが被援助国なのかわからないほど、紳士的になっており、このままでは末端の裨益農民ではなくタイ側トップにオーナーシップが醸成されないという危惧がある。運営方針に対するアドバイスも単にタイ側の要求に合わせるためのものであったり、チーム内部での改善を求めたりするだけで、JICA独自の主張をタイ側に求める、タイ側の姿勢を正すといった活動はなかなか行ってもらえない。

②意思決定機関へのフォローができていない

そもそもプロジェクト事務所であるタークセンターに意思決定権限があまり与えられていないことが問題で、ここで提案したことが事情を知らないバンコクの本庁で簡単に却下されるケースがよくある。JICA 事務所がもう少しこの辺の事情を理解し、本庁の意思決定機関と連絡を密にすることを検討してほしい。あるいは、当初から意思決定機関に責任あるシニア隊員を置かなかつたことが問題である。

③タイ側の引継がうまくできていない

タークセンターのトップをはじめ、10月の移動で山岳民族福祉部部長、公共福祉局局長という本件プロジェクトを管理する縦の系列全部が変わってしまった。現在の対応からして前任者との引継ができていないとは考えられず、タークセンター所長などはいきなり関係ない仕事をやれ、と言ってきた。このようなことがあると、タイ側の本プロジェクトに対する期待が希薄なのではないかという不信感が生まれる。

④計画が未熟

計画が以下の点で未熟であり、それについての修正作業が一切なされなかつたことが問題である。

- ・麻薬予防事業などが活動に盛り込まれており、これは JOCV が行う適切な活動とは思えない
- ・単に普及活動とだけ書かれていて活動内容が不明確である
- ・民族の特性が考慮されていないため投入が無駄がある
- ・麻薬汚染地域でプロジェクトを実施することによる安全確保について検討されていない
- ・タイ側の役割が明確でないため、タイ側が本当に義務を遂行しているのかわからない
- ・運営委員会、管理委員会の位置づけが不明確で意思決定機能がどこにあるのかわからない

⑤事なかれ主義

タイの政府機関の人も日本からミッション等が来た場合、自分の管轄しているプロジェクトが問題ありとは一切言わず、一方日本側のミッションもそれを鵜呑みにしてレポートを書いている。従って書かれたレポートの信憑性については不信感を感じている。また JICA 事務所ももう少しこのようなことに配慮すべきだと思う。現在では「日本が頭を下げて援助をさせてもらっている」ように感じる (参考)。

⑥柔軟性のない人材投入計画

計画が未熟である場合は、人材投入計画に柔軟性を持たせるべきであると考えますが、人材投入計画は変更の余地がない。個別派遣→チーム派遣というパターンができない場合は、チーム派遣の最初に従事するリーダーが将来の人材投入計画を立てるといった柔軟性があれば良かった。

⑦プロジェクト終了後に残る隊員の処遇

来年9月の終了後も残る1名の隊員の位置づけを正確に説明しておかないと活動が宙に浮いてしまう可能性がある。特にそれが女性隊員であるため、安全面においても特別の注意を払う必要がある。村では麻薬中毒者が居たり、密売で指名手配になっている人に会ったりすることもあるため、1人で活動することは決して安全であるとは言い切れない。

(3) リーダーシップ

- ・リーダーについては、リーダーシップを評価されるべきで、チーム派遣のリーダーでその能力がないものは途中で交代させることをすべきである。そうでないと他の隊員にも迷惑がかかるし、プロジェクトは成功しない(参考)。

(4) 隊員の評価

- ・評価には賛成。個人のパフォーマンスも評価されるべきである(参考)。一方で相手国側のC/PやC/P機関の評価も隊員側から行い、それをJICA事務所からフィードバックできるような仕組みがないと、このような縦割り社会では相手国政府の受け入れ態勢が全く改善されない。

(5) 人材育成・相互理解

- ・自分自身の人材育成にはチーム派遣は大きく貢献している。他の分野の人と共同で活動することで、体系的な農村開発の在り方を勉強することができるし、自分で勉強する機会もある。将来的にも国際分野で活躍する仕事をおこないたいが、できれば自分で計画を策定するところから仕事をしたい(参考)。今の環境下では、チームで居るからこそ、自分が守られている(外部の不具合から)という実感がある。
- ・タイのC/Pには、農村開発の技術を教わったという意味で感謝している。しかしながら、派遣期間を通じて相互理解ができたと感じるのはタイ側C/Pと村の人達だけで、福祉局のトップやバンコクのスタッフとは交流ができなかった。

(6) 帰国後の就職

- ・現在日本は不況で帰国してからも自分の希望するところに就職できるかどうか不安である。帰国する前に就職情報や現在の雇用環境についての情報が欲しい。

特記事項・総括

- ・プロジェクトの意思決定に隊員が参加できない、あるいは意思決定プロセスが見えない、というのが最も大きな問題であり、隊員の関係機関への不満の根元もここにある。更にJICA事務所とチームのコミュニケーションも不十分である。

議事録

| | |
|-----------|----------------------|
| 主な課題 | JICA 事務所、調整員の役割について |
| 訪問先名 (場所) | JICA タイ事務所 |
| 日時 | 2001 年 11 月 28 日 (水) |
| 面会者 | 井上調整員 (JICA タイ事務所) |
| 調査団出席者 | 質問状留置の上、メールにて受け取り |

以下は現地調査の最終日に JICA タイ事務所井上調整員に依頼して考え方をまとめていただいたものである。

(1) 最近派遣されるチーム派遣隊員の特徴はなにか。

JOCV 全般から考察すると、技術面は、職種によってバラツキがある。コンピュータ関連・日本語教師など、職業教育にかかる職種は、それなりの経験・知識がある隊員が多い。また、村落開発関連は、日本の青年の現況においては、村落開発を行っていた隊員はほとんどいない。しかし、村落開発関連においては、各種グループの立ち上げ、組織作りや運営管理、商品開発、販路開拓、栄養・衛生指導など、各隊員の得意分野を生かして活動を展開していける。直接的な村落開発経験が必要ともいえないが、精神面・人間性は、言葉・習慣・伝統・生活様式等々異なる環境の中での活動であるため、それらのストレスにいかに対抗できるかがポイントである。これは、今も昔も、人間性、というか、いかに前向きにかつ建設的に、ものを考えられるかに左右される。

(2) トップの意思判断 1 つで隊員の提案が実現されないという「タイ側組織の横割り」の現状を少しでも改善するための JICA 事務所、チームの役割はなにか。

チーム派遣は、年に 2 回運営委員会、1 回管理委員会を実施しており、重要事項は、十分に議論されているため、トップの意志判断で隊員の提案が実現されないということはなく、適切な議論をしていけば実現できる環境にある。本質問が、隊員が羊飼育を導入できなかったことを前提としているのなら、その件については当事務所から、タイ側カウンターパート等と協議検討した結果である。チーム派遣計画に沿った活動で、有効な隊員活動ならば、協議検討して実施できる体制になっているはずだ。

(3) タイ側の予算の執行については、誰がどのようにチェックしているか。

日・タイでの予算執行については、年度始めに管理委員会の場で承認され、年度末には、管理委員会の場で執行報告を行っている。

(4) 個別派遣、チーム派遣の案件形成はそれぞれ誰が行うべ・と考えているか。

タイ国開発計画に基づいて、JICA 派遣方針が決まり、JOCV も重点分野を決めている。JOCV 要請開拓は、優良案件等を、DTEC・各配属先・JOCV で協議・検討しながら決めている。DTEC

ボランティア課とは、事務所次長・調整員が適宜連絡を取り合い必要事項について協議・検討している。海外ボランティア受入について、DTECは予算を支援しており（JOCVの場合は、隊員にかかる住居手当、出張旅費・宿泊費などが補項される）、当然のことながら予算枠に伴う要請数にも限りがある。

(5) 隊員の悩みの傾向とカウンセリングの実施状況

異文化理解や現地での適応力も、人によりそれぞれだが、公的機関を中心とした配属先において、自身の役割や立場を築くことが苦手な隊員も多少散見される。カウンセリングは、適宜連絡や報告書、任地訪問にて実施。

(6) 相互理解、人材育成の達成に関して、受入機関からの評価がどうであった場合、相互理解、人材育成がなされたと評価できるのか。

隊員の配属先本局・任地（職場）・活動対象（C/P、学生、村人等）の評価が同一である場合これらが達成されたと考えられる。

(7) プロジェクトに直接関わるタイ国政府上層部から、C/Pあるいはプロジェクトに不適切な言動や命令があった場合のタイ事務所の対応。

キーパーソンと協議・検討する。運営委員会・管理委員会で協議する。

(8) 最終評価の結果と Phase II 実施の関連

最終評価にて、チーム派遣目的に係る達成度が高くかつタイ・日本側（チームの意志も含む）が有意義であると判断された場合。

(9) PDMに盛り込まれていない活動が、プロジェクト実施中に受入機関側の都合で実施せざるを得なくなった場合の、隊員、JICA事務所の対応

業務に支障が起るようであったら、キーパーソンに申し出て調整・PDMにそった活動が進むよう修正する。

(10) 相手国の事情に併せて隊員の派遣職種の途中変更等を柔軟に考える場合、JICA事務所の障害となるものは何か

隊員の公式要請書が、チームの場合5年間分で公式化されるため、職種等が変更になる場合は、新たな要請書を取り付ける必要が有ること。

Minute of Operation Committee

Working group on Model Project for the Development of Hilltribes towards Self reliant Communities, Tak Province 2nd Meeting on November 27, 2001. at Meeting Room of Center for Hilltribes development, Tak Province

Working Committees

| | |
|--|-----------------|
| 1. Mr. Suvit Sipetcharawandi Director of Hill tribes Welfare Section | Chairman |
| 2. Mr. Hiroaki Takachima Deputy Director JICA. | Deputy chairman |
| 3. Mr. Pinchai Pinkaew Director of Center for Hill tribes- Welfare and Development, Tak Province | Deputy chairman |
| 4. Mr. Charan Siriwan Agriculture Expert 7, Chiangmai | Member |
| 5. Mrs. Suntaree Phuawet Head of Project and Planning Division | Member |
| 6. Mrs. Prapassorn Dhamusingha | Member |
| 7. Mr. Inoua Kasuhisa Co-operative Japanese Volunteer | Member |
| 8. Mr. Wittaya Budphetchaarat Head of Co-operative Working Group- with Japanese Volunteer | Member |
| 9. Mr. Surachai Suriya-Arug Co-operate Working Member on Agriculture | Member |
| 10. Mr. Kitti Saengtao Cultivative Co-ordinator | Member |
| 11. Mr. Suphan Nikornsantitham Village Development Co-ordinator | Member |
| 12. Ms. Anonglak Janearksorn Public Health Co-ordinator | Member |
| 13. Mr. Nagano Shigeo Head of Japanese Volunteer | Member |
| 14. Ms. Akiko Nozawa Marketing Japanese Volunteer | Member |
| 15. Mr. Tatesu Fujioka Cultivative Japanese Volunteer | Member |
| 16. Mr. Makoto Tanaka Agriculture Japanese Voluntee | Member |
| 17. Ms. Hiroko Sato Public Health Japanese Volunteer | Member |
| 18. Ms. Hiroko Irumata Village Development Japanese Volunteer | Member |
| 19. Ms. Amporn Kumpee | Secretary |

Meetings Participants

| | |
|--------------------------|------------|
| 1). Mr. Jarun Thongngarm | Consultant |
| 2). Mr. Kouzou Ito | JICA Tokyo |
| 3). Mr. Takashi Takano | JICA Tokyo |

Meeting start at 13:30 p.m.

Agenda 1: The chairman inform participants as following:

- 1). Mr. Suvit Sipetchcharawandi, Director of Hill Tribe Welfare, replaces Mr. Teeravut Arunvetch's work.
- 2). Mr. Pinchai Pinkaew, Director of Center for Hill Tribe Welfare Development, Tak Province, replaces Mr. Manoj Wongser's work.
- 3). Mr. Wittaya Budpetcharat, Head of Co-operate Working Group with Japanese Volunteer, replaces Mr. Suthi Chantrawong's work.
- 4). Mr. Charan Sirivan, Agriculture expert 7 replaces Mr. Songsak Tepasarn's work.
- 5). Mr. Supan Nikornsantitham, Village Development Co-ordinator replaces Mr. Boonchuay Wongslam's work.

Agenda 2: Approval of minutes of meeting

- 2.1 Approval of minutes of meeting on working group on model project June 14, 2001
The committee agreed with the report.

Agenda 3: Subject to be known

- 3.1 Report on work project year 2001 (April-September 2001).

Mr. Wittaya Budphetcharat proposed co-ordinator report on each project as following:

- 1). Mr. Suphan Nikornsantitham, Leader of Huay Kanun Village working on Village Development reported that village development on different activities in 4 villages for example:
 - Support eco-tourism group Um Yom Village, develop potential services for travelers. However, the inspections of readiness in both the cleanness and babysitting as well as improvement of internal guides are needed.
 - Support women group especially the Um Yom, Baan Ton ma-muang and Baan Musur Luang group. The operations consist of groups' product preparation, Quality Improvement, Color Selection, Design, Product Distribution, and constant follow up.
 - Help reduce the drug problem by joining the community leaders in inviting Um Yom hill tribe people to join the Ar-Srom-Pratammajarik rehabilitation center; Muser Village 17 people join the group.
 - Support registered for village tribes's Thai nationality, by co-operate with Amper Muang Tak office. Taking family's picture and support their journey. There are now 330 Thai nationality.
- 2). Ms. Anonglak Janearksom, Head of Baan Ton Mamuang Village, Public Health co-operative report on following:
 - Follow up with nutrition on children age 0-5 year one village total member of 81.
 - Reduce drug addict Mue Sue Luang Village, number of 9.
 - Giving information to children leader about general knowledge of sexual intercourse and prevention from sexual intercourse's diseases.
 - Built in sala and walk path in village.
- 3). Mr. Surachai Suriya-Arug, Head of Um Yom Village, co-operative working member on agriculture, report work on
 - Help cultivation on long life tree for seven members. There are 320 arabika coffee tree, 150 Avocado-tree, 90 Salee tree.
 - Help on Um Yom coffee transformation by giving information on instrument and recommendations.
 - Follow up on cultivation of mushroom at Huay Kanun Village, Bann Ton Mamuang for 3 families and expect to expand in the near future.
 - Follow up on demonstrate cultivation of calamus.
- 4). Mr. Kitti Saengtao, Head of Musur Luang, co-operative on animal farm report the work on following:
 - Support 2 pigs feeding families at Bann Huay Kanun and feeding in limited space which they are not acquainted. Now 2 pigs give birth to 16 pigs.
 - Support 7 chicken feeding families at Bann Ton Mamuang now there are 500 chickens.
 - Support 2 fish feeding families now there are 6,000 fishes.
- 5). Ms. Akiko Nosava, marketing Japanese Volunteer report on following work
 - Support eco-tourism of Um Yom Village distribute sheets and poster for the village and the village entrance poster.

- Settle community shops in Um Yom Village and open for the purpose of development for marketing professional products of 1 village, support eco-tourism Um Yom village and use these shops for tourist.

Director of Village Development and Welfare Section proposed as following:

- Village development, Um Yom proposed on community activities and village group, treat all drug addicts.
- Cultivation, should have cloth filter for coffee.
- Animal farm, help village people to cultivate rice, corn for feeding pigs.
- Marketing by propose proper prize and giving tips for guide to promote tourism.

Mr. Hiroaki Takashima agreed that every activity continue with good management and the project will continue for another 1 year before it will be terminated and think that activities still continue.

Director of Village Development and Welfare, Tak province recommended on drug addict treatment continuation. After treatment, they should not return to addict again. This is based on their family. Drug addict problems found in Bann Huay Kanun should be continued to treat the problems of drug addict and try to find the advantage and disadvantage of treatment problem.

3.2 Report on Students' accommodation project.

Mr. Nagnano Sikeo, Head of Japanese Volunteer reported on the following:

Students's accommodation was built and ready to live on July 30, 2001 for students at Bann Huay Kanun or who live far away. Now it is on process of building the fence around the accommodation there are 12 students now and expect to increase another 5 students next year.

Mr. Wittaya Budphetchaarat added that there is 1 employee who stays with students and village development office will take care employee and student. There will provide food and rice for the new comer students.

Director of Village Welfare Section proposed family to help about students food and rice, and should have somebody take care in the Students's accommodation.

Agenda 4: Subject to be considered

4.1 Working Plan for the year 2002.

Mr. Wittaya Butrapetcharat proposed the working plan for year 2002. There will be 43 activities 9 jobs and the total budget of 1,616,000 Baht and can divide budget for Public Welfare Development 740,000 Baht budget of JICA 705,600 Baht and circulate budget for village 170,000 Baht.

- Bann Ton Mamuang propose problem in efficiency development education.
 - Children with malnutrition, have to recommend their parents.
 - Eco-tourism will recommend Bann Um Yom because it is promotion village for tourism.
 - Project for this year will emphasize on each and will do each handbook
 - Example of agriculture will be on planting passion fruit.
 - Chicken feeding will be all year round and be able to support tourism.
 - Production of wine from fruit.
 - Ram Kamhaeng University already trained production of wine from fruit for example Mameo which are easy to find.
 - Welfare for poor people, tourism, poster making and sheets.
 - Promotion for orchid, go to see project Bann Huay Ee and the village are interested in cultivate orchid.
- The committee agreed

4.2 Work plan for Thai team leader.

Mr. Nagnano Shikeo said that now the Thai Team leader work for 2 sides and would like him to work only on JICA project.

Director of Village Welfare Section proposed to work together and leave this issue to Director of Village Center, Tak Province.

Mr. Hiroaki Takashima proposed that Mr. Wittaya is head of the 2 sides and if it is possible he would like him to be Head of JICA team only.

Director of Center for Village Development and Welfare proposed that Mr. Wittaya should use task from JICA project for other villages and should be more useful.

Director of Village Welfare Section proposed to see farm activities and plan together every month.
Director of Center for Village Development and Welfare, Tak Province proposed that the center will give the project important and some village has to be helped and will work as project manager.
Director of Village Welfare Section proposed to help project in each month.
Mr. Inouae Kasuhisa proposed that why change volunteer to work only one side because before that they have to work for the project.
Mr. Wittaya Budphetchaarat proposed not to be responsible for center because they have to be responsible only for their sides.

The meeting closed at 15:30 p.m.

Head of Tak Center

Venue: Tak Hill Tribe Center

Date: November 28, 2001

Time: 16:45-18:45 p.m.

Participants:

1. Mr. Pinchai Pinkaew, Director of Tak Hill Tribe Center
2. Mr. Masashi Takano, General Manger & Senior Consultant
3. Ms. Pritsadang Engchanil, Researcher
4. Mr. Apirak Kongpityapong, Researcher

Model development village

- Model development village is a new approach to hill tribe development. Previously, the Center tried several ways to implement the model village program. Both Thailand and JOCV should cooperate to develop the most appropriate method to help the hill tribes help themselves.
- Replicating the success of model villages to other hill tribes requires that the target villages study carefully the past experiences of the model villages, particularly, the problems encountered and how they were resolved. .
- Using the hill tribes of model village to transfer their knowledge to other hill tribes is suggested, as their close culture will minimize communication problems.
- This model project could be taken as the role model for the development of other hill tribe villages. Study tours arranged for the heads of the target hill tribes to observe the development made under the sponsorship of JICA will help provide new ideas for applying to their home villages.

The Three Methodologies to apply the knowledge learnt from model village.

- Setting up small groups to discuss on the various aspects of the model village
 - Leaders of the target village to visit and stay with Leader of the model village such that they can discuss and share their knowledge.
 - Implementing the program
- Find out the problems and seek solution to them by preparing plans on what to be done first.

- The model project helps other hill tribes understand what the nature and local equipment can be used. Besides, there exist a wide variety of occupations that fit them. The local hill tribes will cooperate well with JOCV if the latter tries to understand their custom.

- Whether JOCV members are good depends on how good their team leader tries to cooperate with their Thai counterpart and understand the Thai culture. The Volunteers already had good knowledge to help the hill tribes.

- The required characteristics of volunteers in this project.

- Having strong leadership
- Providing good Cooperation
- Being compromising
- Having good knowledge
- Being reasonable

Mr. Makoto (who initially set up this project) was a good person and appropriate for this project because he coordinated well with the Thai government and its counterparts. It was because he knew Thai culture very well.

- The types of volunteer not needed for this project

- Problem maker

- Unreasonable person

- Not communicating well with others

- Evaluating the performance for the JOCV volunteers is needed to unveil the strong and weak points in developing themselves.

- This Project should be evaluated because it can be used as the lesson for the next project.

- The Project should be evaluated by outsiders

- PDM should be imparted to all concerned.

- It is indifferent whether JOCV, consultants or experts is to assigned the implementation of the Project.

- The Tak Hill Tribe Center has no problem to contact with JICA at the Bangkok office and/or the overseas one.

- The Model Development Village in Tak is not only supported by JOCV but also by other organizations.

- There should be no difference between having the JOVC team or other volunteer teams working on the Project. The JOCV team members do not speck much apart from working hard.

Hill Tribe Welfare Division, Department of Public Welfare, Ministry of Labor and Social Welfare

Venue: Hill Tribe Welfare Division, 4th Floor, Building 2, Department of Public Welfare, Ministry of Labor and Social Welfare

Date and Time: December 4, 2001: 0900-1030 hours

Interviewee: Ms. Suntaree Puaves, Chief, Planning Sub-Division for Mr. Suwit Petchawandee, Director of the Hill Tribe Welfare Division, who was away in an official mission outside of Bangkok.

Interviewers: Somporn Hanpongpanh, Researcher
Pritsadang Engchanil, Researcher
Apirak Kongpityapong, Researcher

A: On Completion of the 5-point Evaluation

1. Ways/actual methods to facilitate/replicate this model in the future

- Select villages of similar background
- Select villagers of similar occupations
- Seek further cooperation from JICA or budget from the Thai Government.

2. What is the expected model to follow/look like?

- The existing models include those of the World Bank, Australia and some modifications of the two, which were operated in 5 provinces and will be extended to their Phase-2 in three more provinces.
- The expected model should be equipped with assistance in terms of budget; manpower, training, human resource development, institution development, people's participation in planning, implementation as well as monitoring and evaluation; and environmental friendly agriculture system.

3. As to the records of the Thai side on the results of the past attempts and achievements of Japan through the displacement of the team-type JOCV, the following is observed/recorded by the Thai side.

(1) Despite the clear objectives given on the displacement, it normally took quite a while for a new volunteer to adjust herself/himself to the new situation. Too frequent displacement, e.g. every two years, has resulted in delays found in some operations. Records also show that some JOCV did not strictly follow the suggested plan drawn from the PDM exercises. There was also some indication of independent decisions made by the JOCV team in carrying out some activities without due consultation with the concerned Thai officers.

(2) The bright side of the practice, on the other hand, is that new volunteers are generally more active than those who have been serving for quite some time.

(3) Longer duration of displacement is suggested.

4. In order that the project will successfully gain support from the society, the following is suggested.

There is a need to disseminate information on major activities of the Model Project to the public. This has been done in the form of related articles on newspapers as well as special programs on radio, television etc, In the eyes of the local society, the JOCV have gained much popularity through their personal contact, and the various activities they jointly work out with the villagers.

5. Project monitoring and evaluation has been regarded as essential to the success of the project. On the Thai side, M&E has been conducted by a working group headed by the Director of the Division himself. There are also three group members selected from those working outside of the Project. The Working Group meets 2-3 times a year to discuss on the progress and possible impact of the Project. A mid-term evaluation has jointly been conducted by officers from the Division and JICA experts from Japan.

6. The success of the Project is drawn from indicators on the development of women's groups; higher income of the hill tribe villagers; increased agricultural production, more non-farm employment and income, especially from the home-stay tourism project from which an average monthly income of 600-800 baht per person has been earned. In terms of health care, there is a Sanitary Station at Um Yom along with better health conscious and availability of potable water in the villages.

7. Expectation on the achievement of the team-type JOCV activities is mainly expressed in terms of exchanges of experiences and knowledge, which are replicable in other villages. .

8. Understanding that most JOCV are inexperienced young men and women of different backgrounds, the Division does not set a too ambitious expectation on them. The Ideal image of the team-type JOCV activities is the way they have been plus occasional reviews of their performances for necessary displacement.

B: Evaluation of Project Impact on Mutual Understanding

1. There is not much difference between the characteristics of volunteers from other countries (e.g. from Australia) and the JOCV. The only difference has been their culture, which does not pose serious problems on to their performances.

The degree of JOCV's contribution to mutual understanding between them and the hill-tribe villages has been high based on the satisfaction expressed by the latter. That between the JOCV and the Thai side has also been satisfactory.

The indicators used in evaluating this impact are the number or magnitude of conflicts and problems found in day-to-day communication between the two, which can be said of being low and posing no serious problems.

2. On what the JOCV may provide to deepen mutual understanding, the Division would like the JOCV to adhere more to the administrative procedures of the Thai side, especially in terms of decision-making on selected project activities. It was found that sometimes the JOCV Team Leader made decision without

prior consultation with the Director. An example was the purchase of a radio-communicating device, which was not compatible with the local system, and hence inapplicable.

C: Issues and Suggestions for Project Formulation

1. The major issues found in the implementation of the Project towards self-reliant communities include difference in the cultures of the JOCV and the hill tribes. The Japanese volunteers do not have any problems in formulating self-reliance projects for the hill-tribe communities. Allowing participation of all concerned in the planning and implementing process has been the merit of the achievement.

The major lesson learnt from implementing the Project is the efficiency and effectiveness of team working among the JOCV, the counterparts and the PWD. In other words, despite some conflicts, they were finally resolved. through team working.

Ways to avoid these issues including appropriate Human Resource Development program organized during project implementation. This will help prepare all concerned to understand the various components and steps in project implementation, and hence mutual understanding.

2. Since the Australian project had been terminated before the initiation of the Model Project, there was no indication of any transfer of information from them to the JOCV. Those from others include some NGOs and small projects have not been available.

3. The information that the Division would like the JOCV to transfer to the villagers includes that about their activities with emphasis on production, marketing, and export, especially to the Japanese communities in Thailand. On the other hand, information about the hill tribes and their development should be disseminated wider among all parties working on rural development.

議事録

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 主な課題 | インタビュー時間外で得た情報 |
| 訪問先名（場所） | フィリピン家畜人工授精強化プロジェクト、タイ国山岳民族自立支援プロジェクト |
| 日時 | 2001年11月19日（月）～2001年12月2日（日） |
| 面会者 | カッコ書きで明記 |
| 調査団出席者 | 高野（記録） |

協議内容

以下は現地調査期間中、正式なインタビュー時間外で知り得た情報や提案についてまとめている。尚、情報提供者は文末（ ）内に明記した。

(1) フィリピン国家畜人工授精強化プロジェクト

以下は、正式な聞き取り時間外で議題となった教訓や提案をとりまとめたものである。

(UNAIP 及び酪農プロジェクトの指針について)

- ・R10、R7 の大半の農家は人工授精師が行うサービスに対しての支払い意志がある。R10 の農家の場合、発情期に雄牛（優性牛とは限らない）を連れてきて授精させる民間業者が実施しているサービスに対して農家は P250～P300 を払っており、優良精子の授精サービスが P50 程度で行われるのであれば、支払額は安いと感じている（農家聞き取り）。R10、R7 では既に農家に対する課金を実施している LGU も多い。しかしながら、LGU の行政職員によっては、行政サービスはあくまで無償で実施すべき（ミサミスオリエンタル州獣医事務所）、という考え方を持っているものもあり、今後の普及活動を通じて「自立発展を促進するための適正な金額徴収」に対して理解を求めていく必要がある（引場隊員）。
- ・一方、徴収した金をどのような決まりでプロジェクトの維持管理費用に充当させるかについては、今後適正な法体系の整備が必要である。一般的に LGU がこれを実施する場合、以下のプロセスが踏襲される（引場シニア、伊藤代理、ミサミス・オリエンタル州開発スタッフ）。

- (1) 農家が人工授精師にサービスの依頼を行う
- (2) 人工授精師がその引き合いを正確にレポートする
- (3) 人工授精師が農家を訪れ、牛の発情を確認する
- (4) 発情が確認された場合サービスを実施する
- (5) 受胎が確認された場合に農家は DA に対して支払いを行う

この際以下の留意点が必要である（伊藤代理）。

- A) 詐欺や横領を未然に防止するため、標準化された書式に引き合いを正確に記載する必要がある。そのためには引き合い窓口を一元化する、人工授精師に求められる成果を月当りのサービス頭数からサービス提供額に改める等の変更が必要になる。

- B)農家の支払い方法と支払先を一元化する必要がある。LGU の Treasurer あてに支払いを行った場合では、現行の法制度からするとこれが一般会計扱いとなり、直接的に AI サービスの維持管理費に移管することは不可能である。更に NABC の場合と同様、行政機関が営利事業を行うことは禁止されている。NABC の場合は、BIR、DA から特別の許可をもらい、特定の口座に入金し、NABC の会計担当者がそれを管理することで、入金を維持管理費に充当させている。同様な法整備が LGU レベルでも求められる。
- C)入出金に対しての監査が必要である。当該スキームが不正の温床とならないためにも、定期的な監査が必要になる。DA 及び会計事務所からの内部、外部監査が必要になる。

・UNAIP の実施においての専門家の役割は、以上の規則を制度化し、モニタリングする体制を作る法的整備の支援であると考えられる（引場シニア）。

(2) タイ国山岳民族自立支援プロジェクト

(案件形成)

- ・タイのJOCV要請枠はDTECが決めている。現在は年間60前後で、これはPeace CorpsやVSOに比較すると多い。政府の財政緊縮を受けて要請の質・量が減っていると同時に分野がJOCVと合わなくなってきている。近年IT関連等調達が困難な職種の要請が増えている。基本的には案件形成はタイ側主導で行われている（JICA事務所）。
- ・要請機関が末端機関と調整されておらず精度・優先度の確認に支障がある。この場合は、調整員がこれを確認している。また、調査から隊員派遣までに体制が変化し業務内容の変更がある（JICA事務所）。

(隊員気質)

- ・「技術」以外の活動環境整備は事務所・配属先の責任と考える隊員が増えている（調整員）。
- ・コミュニケーション能力は（1）語学力、（2）表現力、（3）社会性・積極性を含む。（1）は派遣前・現地語学訓練の一貫性（授業・教材・評価方法）のあるカリキュラム整備が必要である。（2）（3）についても何らかの訓練が必要（調整員）。
- ・自己の手法・価値観に固執し、適応力に欠ける隊員が増加しているため、事務所のカウンセリング機能を充実させている（隊員側に変化を求めるのは困難というのは事務所の声）、更にリーダーの育成が重要である（調整員）。
- ・隊員の中には自助努力する意思を失って、協力の妥当性を疑問視するものもいる。その対応策として、継続派遣要請については活動成果と自助努力姿勢、計画を厳しく評価したい（隊員ではなく第三者評価；第三国NGOが望ましい）（JICA事務所）。